

＜今日の説教のポイント マタイによる福音書 27 章 45～56 節＞

①十字架の死のリアルな残酷さを描かず、その意味を追う福音書！

福音書は4つとも、イエス様の十字架の死の場面を残酷に描かず、むしろ、その意味を考えさせるような書き方をしています。ですから、そこに込められた意味は何かを考える読み方をすることが大事です。

②読み解く鍵 1 旧約聖書が多用されている！

この箇所の特徴は、旧約聖書の表現が多用されていることです。例えば、明らかに、以下の様な旧約聖書の箇所が使われています。

「その日が来ると、と主なる神は言われる。わたしは真昼に太陽を沈ませ白昼に大地を闇とする」(アモス書 8:9)、「見よ、主の日が来る 残忍な、怒りと憤りの日が。大地を荒廃させ そこから罪人を絶つために。天のもろもろの星とその星座は光を放たず 太陽は昇っても闇に閉ざされ 月も光を輝かさない。わたしは、世界をその悪のゆえに 逆らう者をその罪のゆえに罰する。また、傲慢な者の驕りを砕き 横暴な者の高ぶりを挫く」(イザヤ書 13:9-11)、「わたしの神よ、わたしの神よ なぜわたしをお見捨てになるのか」(詩編 22:1)。他に、ナホム書 1:5-6、詩編 69:22 等。

これらから大事なことを知らされます。主イエスの死には神様に対する人間の大きな罪が関係しているということ、そして、イエス様の苦しみは人間のその罪を一身に負って下さる苦しみであった、ということです。また、イエス様は「神様に見捨てられた」と思うほどの苦しみを負われた(詩編 22:1)と同時に、最後まで神様を信頼し通されたのだということ(詩編 22:23 以下で逆転)です。

③読み解く鍵 2 マタイが伝えたかったこと — 新しい始まり！

51 節後半「地震が起こり」から 53 節は、マタイだけが記している記事です。伝えたかったことは何か？ イエス様の死が命の再生を生じさせる新しい時代を開いたということではないでしょうか！パウロもこう言っています、「罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです」(Ⅱコリント 5:21)。

百人隊長や見張りをしていた者たちの「本当に、この人は神の子だった」(54)という告白は、私たち自身の信仰の告白を思わされます。イエス様を嘲笑していた兵士たちが変えられたように、今や私たちも主を信じて生きているからです。新しい始まりです！